



第 60 回全日本学生自転車競技トラック新人戦 東日本大会

2025 年 10 月 12 日 (日) 山梨県笛吹市 境川自転車競技場 (屋外 400m)

主催：日本学生自転車競技連盟
協賛：公益財団法人 JKA
井上ゴム工業株式会社

共催：公益財団法人 日本自転車競技連盟
公益社団法人全国競輪施行者協議会
株式会社パールイズミ

運営協力：山梨県自転車競技連盟
一般社団法人日本競輪選手会
株式会社 JPF

Communiqué No.3

2025 年 10 月 6 日

チーフコミッサー 深井文浩

競技上の注意

(1)基本原則

- ・すべての参加者(選手、スタッフ、役員、その他)は安全を第一に競技会に参加すること
- ・すべての参加者は競技規則を再確認し、それを遵守すること

(2)競技役員

- ・コミッサー・パネル 深井文浩(PCP)、森川和之、古川利勝、岩間光輝
- ・セーフティー・マネージャー 鈴木俊保
- ・その他アシスタントコミッサー

(3)競技規則

- ・最新版 UCI 競技規則、最新版(公財)日本自転車競技連盟競技規則および大会特別規則による。

● 学連独自規定は

https://jicf.info/hp/wp-content/uploads/2025/05/gakuren_annai_20250504.pdf
に掲出されている

(各競技における周回数 等)

200mFTT 2 周

スプリント 2 周

ケイリン 4 周(スタートは中央線・ペーサー離脱 2 周回目中央線)

ポイントレース 5 周に1回のポイント

ニュートラリゼーション 3 周

(4)機材

- ・当連盟 HP に掲載「日本学生自転車競技連盟の競技大会において使用する自転車に関する規程」を遵守すること(例「ナットの緩みやチューブラータイヤのリムセメント固定不十分など、整備不良が事故(落車や不正スタート等)の原因であることが明らかな場合、安全上の観点からコミッサーの判断により再発走を認めないことがあります」など 詳細は本規定を確認すること)

(5)バイクチェック

- ・参加選手は出走の 15 分前までにバイクチェックを受けること
- ・チームスタッフは出走順と競技の進行状況を確認し、選手が時間通りにバイクチェックを受けるように注意すること
- ・主催者は参加者のバイクが競技規則に適合しているかどうかを確認する



この大会は競輪の補助を受けて実施いたします。
<https://www.jka-cycle.jp/>

レースの結果はホームページでも公開しています。<https://jicf.info/>





第 60 回全日本学生自転車競技トラック新人戦 東日本大会

2025 年 10 月 12 日 (日) 山梨県笛吹市 境川自転車競技場 (屋外 400m)

主催：日本学生自転車競技連盟
協賛：公益財団法人 JKA
井上ゴム工業株式会社

共催：公益財団法人 日本自転車競技連盟
公益社団法人全国競輪施行者協議会
株式会社パールイズミ

運営協力：山梨県自転車競技連盟
一般社団法人日本競輪選手会
株式会社 JPF

- ・自転車の整備について主催者はいかなる責任も負わない
- ・自転車の整備不良等により、安全を損ねる危険性がある場合は、出走を認めないことがある

(6)セーフティーゾーン

- ・セーフティーゾーンとは、ブルーバンドの内側のエリアのことである
- ・競走中は、セーフティーゾーンの中には競技規則で認められている場合(パーシュート種目と、バンチレースで事故が発生した後にコミッセルに認められた場合)を除き、チームスタッフが立ち入ることはできない
- ・スタート前のホルダーも含め、セーフティーゾーンに進入する際は周りをよく注意すること
- ・競走中であっても一部の競技役員はセーフティーゾーン内で執務を行っていることがある。選手はよく前を見て走行し、衝突することのないように充分注意すること

(7)タイム系種目

- ・発走機を使用し、電子計時を予定している
- ・片側発送で行う
- ・競技時程が円滑に進行するよう、次の走者は、スタート地点付近にて待機すること
- ・出走順になったら、速やかにペダル位置を合わせて発走機に自転車をセットすること
- ・競技終了後は速やかに走路から退出すること、ウオームアップ、ダウンは芝生内側の走路を使用すること
- ・4kmインディビジュアルパーシュートはタイム・レースによる決勝のみとする

【競技規則より抜粋】

第 90 条(トラックレース)

(スタンディング・スタート競技における再スタート)

22. スタンディング・スタート競技の各ラウンドにおいて、チームまたは競技者は 2 回のみのスタートが認められる。1 回の再スタートが、不正スタートの結果としてまたは認められる事故時に認められる。

⇒ フライングおよび認められる事故時のみ再スタートが認められる

(認められる事故)

18. 下記は認められる事故と判定される。(1) 正当な落車 (2) パンク (3) 自転車の重要部分の破損 その他すべての事故は認められない事故とみなされる。

⇒ ペダルクリートからの脱落、車輪の緩み、ハンドルポジションのズレ等は再スタートは認められない

(8)ケイリン

スタートにおいて競技者はペーサーの直後で抽選によって決定された位置を取ることとし、スタート後少なくとも最初の周はペーサーの後ろにつかなければならない。競技者たちはペーサーがトラックを離れる時まで、ペーサーや選手の直後について間隔を空けてはならない。これを行わなかった場合直ちにレースを中止し違反した競技者は失格とする

(9)ハイトカテゴリー

カテゴリー 2 以上の選手については UCI リスト申請することを基本とする。UCI リスト登録のない 180cm 以上の選手は“カテゴリー 1”として扱う



この大会は競輪の補助を受けて実施いたします。
<https://www.jka-cycle.jp/>

レースの結果はホームページでも公開しています。<https://jicf.info/>





第 60 回全日本学生自転車競技トラック新人戦 東日本大会

2025 年 10 月 12 日 (日) 山梨県笛吹市 境川自転車競技場 (屋外 400m)

主催：日本学生自転車競技連盟
協賛：公益財団法人 JKA
井上ゴム工業株式会社

共催：公益財団法人 日本自転車競技連盟
公益社団法人全国競輪施行者協議会
株式会社パールイズミ

運営協力：山梨県自転車競技連盟
一般社団法人日本競輪選手会
株式会社 JPF

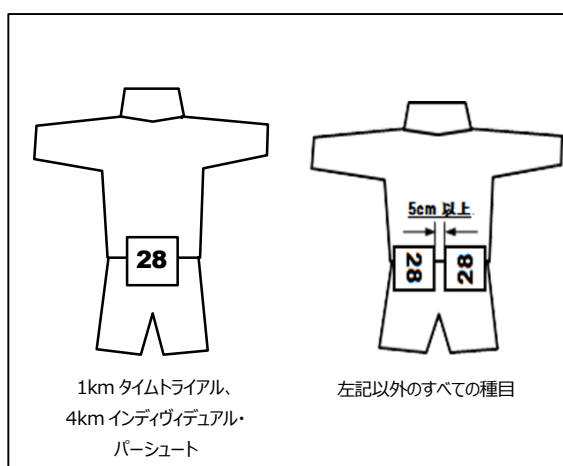
(10)警告と失格

同一種目における 2 回目の警告(同一大会における 3 回目の警告)、非スポーツ的行動による失格、3 回目の降格(警告との累計含む)の時、他種目含め大会全体から失格となる

(11)バンチレース

- ・各種目専用ゼッケンは使用しない。フレームプレートを配付するので、身体で隠れないように自転車フレーム中央に取り付けること。(トランスポンダーは使用しないので、選手判別にはゼッケンおよびフレームプレートの番号を審判が容易に読取れることが非常に重要である。十分に留意すること。)
- ・ホルダーは各チームで用意のこと
- ・事故等に備えたチーム員は、必要な機材をあらかじめセーフティーゾーンの内側芝生内で準備・待機すること
事故の際にインフィールドに入る際は、コミッセルの許可を受け、その指示に従うこと
- ・スプリントおよびケイリンの勝ち上がりは時程表に記載のとおりである

「参考：ゼッケンの付け方」



この大会は競輪の補助を受けて実施いたします。
<https://www.jka-cycle.jp/>

レースの結果はホームページでも公開しています。<https://jicf.info/>

